

“地元”に腰を据え

お年寄りの「寄り合いハウス」を自宅で

藤元勝夫さん（66歳）

—藤元さんは秩父で平和に関する企画を色々されたり、あちこちに「語り」の出版をなさったりと多方面で活躍されていますが、自宅を開放してお年寄りのための「寄り合いハウス」を始められたきっかけは何ですか。

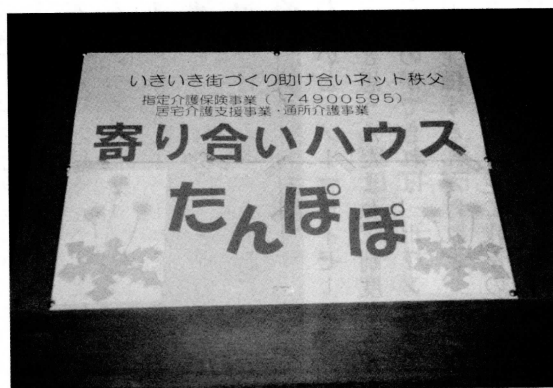
藤元 一九七六年から九〇年まで国会議員の候補者として活動をして、もう候補者はいよいよって言われて、ふと周りを見回してみたら、なんだ、候補者活動を始めた頃より世の中悪くなっているじゃないかと。周りの人たちの状況は悪くなっている。これだと今までやって来たことの意味がなくなっちゃうんじゃないか

— と思っただんですよ。今まで頑張ってきた人たちが、今、目の前で年を取って動けなくなっている。この人たちにできる限りの事をおきたいと思っただ。ある秩父事件の研究者が、現行制度のもとで病院を転々として、みんなから見守られないでひっそりこの世を去っていったのを見て、こんなバカなことはないと。これはもう急がなければならぬと思った。そして、手取り早く始めるには、自分の家に来てもらえばいいと思っただよ。お陰さまでなんとかNPOができました。

— 今、何人くらい利用者がいらつしやる

のですか。

藤元 介護保険利用者は十一人。年寄りが夫婦で暮らしているでしょ。奥さんの認知症が進んじやっている。その介護をしているご主人をなんとか一日でも休ませなくてはいけない。そのためにはここへ来てもらわないと。あらゆる方法を考えて、なんとか一、二回来てくれれば、気持ちがつながるからね。後は、この子（藤元さんの愛犬でセラピードッグとしての訓練も受けているゴールデンレトリバーのポリー）が接待してくれるから。スタッフは私達夫婦も入れて十人。みんな



な六十代から七十代の年金生活者ですよ。そしてボランティアが四、五人ですね。

「わがまま」を受け入れる



ポリー

藤元勝夫さん

——宿泊も受け入れていらっしゃるんですか。

宿泊はできるよ、俺だって寝てる処だもの。認知症の激しい人の中にはね、他の施設ではその入所者とトラぶっちゃう人もいるわけだ。それで、困って、藤元さんの所で何とかお願いできないだろうかと頼まれてさ。ここでは、一人のスタッフが付きつきりで話し相手になってる。ここしかないんだよ、居場所が。その家族にとっても。時には泊まってもらって、家族には気持ち休めてもらおう。明日も泊まりに来る人がいるんだよね。

介護保険というのは今、制度上、八時間まで見るべきものが実際には六時間ぐらいしか看ない。家族にとってみたらやはり八時間看てもらわないと、安心できないじゃない。そういう場合にも対応しているんです。

——わがままを言ったりするお年寄りもいるでしょう。

藤元 もうほとんどですよ。「帰りたいよ」と泣き叫ぶ。したらこちらも負けないで、「おばあちゃんがいなくなったらやだよー！」って泣いてみたりさ。「語り」から学んだ事が生かされるね。

だからね、結局はそういうわがままを

受け入れるってことなんだよな。それはね、わがままって言うてはいけないんだと思うんだよ。認知症の人は、自分の気持ちでそうなって動いているわけだから、その人にとってみたらわがままという概念はないのよ。一生懸命片付けたと思うから手当たり次第、物をやたらに動かす。そしたら「あーきれいにしてくれてありがとう。」と言ってあげればいいわけだよ。今の認知症はそういう角度から接しないとイケない。もう一つは、認知症は誰でもなる可能性があるというふうに思っているんですね。なる事を受け入れて、そのために、自分はどうな準備をしていけばいいか。そこるところが今大事な、と思うんですよ。

ノーマライゼーションという言葉があるけれども、そういう人達が地域で普通に暮らす、それには、そういう人達を地域で受け入れる、と同時にその人達のために自分の労力を費やす、この二つが伴わないと、ノーマライゼーションはできないと思うんだよ。制度がちゃんとしたものができる、ボランティアだって力を発揮するんだけど、残念ながらそうでないから、逆に我々の力でそういう社会を作っていくかないと。

若い人を支え育ててゆく

—これからの抱負は。

藤元 高齢者の家族に必要なことは何でもやろうと夢中で三年間やってきてみて、やっぱり、こういう空間というのの大事で、これからもっと必要になる。そして、ここを、子どもも一緒にいられたり、心を病んでいる人たちも気軽に来られたりする所にしたと思うんですけど。同時に、俺がやっているだけでなく是非みんなにもやってもらいたい。そんなに難しいことじゃないんだよ。介護というと、専門的な所に連れて行くという感じがあるけれど、どうせ看るならみんなで見ようね、じゃ、あんたん家をそうしちゃうと、これだけでも出さちゃうわけだから。

私の理想は、年金受給者はここでの報酬はそれほどはもらえないけれど、その分、生活を抱えた若い人がここで働くのをみんなで見守って、支え育てていく。その若い人にここで中心になってもらうて、色々な知恵を出して頑張ってもらおう。そういう関係もこの中で作りたいたいというのが一つの夢ですね。

立場の弱い人を徹底して守る

—やりたいことを躊躇せずにとんどん行動に移していってほしいですね。

藤元 昔、「ドレイ工場」という映画があつて、首切られた連中がオルグに行つてみんなに訴えたら、「勝つ見込みはあんのか！」なんて言われて、立ち往生しちゃう。そして、「最後に勝つた時が見通しだあ。」とタンカを切つて。そのイメージが俺はうんと強いよね。やんなきゃ、何も始まらない。立場の弱い人を、守るんだつたら徹底して守る、時間も金も費やすという腹をみんなで見守らないと、変わらないんじゃないか。見るよ、手を出さよ、力貸すよっていうね、その腹をみんな本気で括らないとうまくいかないかなと、私は思うね。



藤元さん

永井さん

聞き手 秩父子育てネットワーク

・ 葭田あき子

・ 永井三千代

・ 説田三佐子